

市民活動は
まちの未来を
創造する

パートナー

発行 静岡市清水市民活動センター
 指定管理者 特定非営利活動法人
 NPOサポート・しみず
 〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1
 Tel 054-340-1010 Fax 054-351-5530
 mail@shimizu-s-center.org
 http://shimizu-s-center.org



地元の魅力を再確認

利用団体連絡会議

今回の交流ワークショップは、地元の逸品についての商業作りがお題です。有度ナシ、折戸なす、かっぱ饅頭、揚はんぺん、バラの5品をグループごとに担当します。

テレビに見立てたフレームの中での発表は、それぞれが工夫を凝らして大変盛り上がりました。みなさんの見事なプレゼンテーションは、見慣れた地域資源への愛着、まちへの思いが溢れていました。

事業報告

● NPOの資金調達連続講座その1 団体にあった資金調達を考える

9月1日

多くの団体にとって「資金確保」は悩みの種です。清水市民活動センターは、「資金調達＝ファンドレイジング」への支援もおこなっています。その一環として、今年度は資金に関する連続講座を企画しました。

大切な財源分析

「資金」の課題は、助成金や寄付の集め方を知れば解決するというものではありません。講座では、各団体の活動計算書から収益の内容を円グラフで可視化し、収入源の割合を明確にしました。

NPOは、寄付、会費、助成金(補助金)、事業収入、融資などの多様な財源があり、自団体にとって最適なバランスで獲得していくことが必要です。団体の収益をグラフにし、年毎の変化を見たり、予算が同規模の他団体と比べたりすると、課題がはっきりします。ですから、このような財源の分析はとても重要です。

例えば、個々の事業の収益・費用の分析の結果赤字

だった場合、それを理由に止めるのか、ミッションと照らして寄付や助成金でカバーして継続するのか、判断の根拠にもなります。

連動する財源・事業・組織

正会員・賛助会員が多い団体は、そのメンバーに寄付を依頼することもできます。ビジョンやミッションをわかりやすく伝えることができれば、さらに多くの支援者を獲得できます。また、認定NPO法人格を取得すると寄付金が税額控除の対象になるので寄付者にとってもメリットがあり、寄付をお願いしやすくなります。

団体が、自らのミッションを明確化し広報を強化すること、会員等を増やすこと、すべてファンドレイジングに関係してきます。

これらのことを意識して、団体にあった資金調達の方針を立ててみましょう。

リレートーク 港の風 44

今回は、「ひきこもり」という課題に正面から取り組んでいる三森重則さんに登場していただきました。

● ゆっくりとした9年の歩み

NPO法人サンフォレスト代表 三森 重則

NPO法人サンフォレストは平成20年に設立されました。今年で9年目になります。これまでの主な事業は不登校・ひきこもり青少年の支援です。

私がひきこもり支援に関わるようになったきっかけは、ある一人のお母さんからの相談でした。15年ほど前になります。それまでひきこもり問題に関心はありましたが基本的な知識も無く本当にゼロからの出発でした。次第にひきこもり問題の深刻さや多様性、数の多さに気付かされ、実際の取り組みも、個別相談、訪問支援などに広がっていく中で、私個人が取り組むだけでは限界があることがはっきりし、NPO法人設立に至りました。

法人設立後の活動も具体的な出会いの中で提示された新たな課題を考え取り組んでいく姿勢は変わりません。サンフォレストでの歩みはかなりゆっくりな歩みではありましたが、出会った相談者のニーズに応えるように、不登校・ひきこもりの個別相談、訪問支援、当事者の居場所開設、家族会(サロン)活動、当事者のコミュニティーカフェ(しゃべり場)と拡大していきました。

平成24年には事務所(活動拠点)を持つことが出来、活動が安定することが出来ました。複数のスタッフやボランティアとじっくり話し合い活動の充実を考える機会ともなりました。また、静岡市青少年育成課、静岡県ひきこもり支援センター、掛川市社会福祉協議会のひきこもり支援のアドバイザー・スーパーバイザーとして関わらせていただくようになりました。

平成27年度からは「静岡市ひきこもり地域支援センター」運営委託を受け、スタッフも大幅に増え、活動拠点も大きく2箇所になりました。さらに昨年度からは、「静岡県ひきこもり支援センター居場所設置事業」を受託し焼津市内でひきこもり当事者の居場所の開設運営をしています。今年度からは、静岡市の「ひきこもりサポーター初級養成講座運営事業」を受託しひきこもり支援に関わってくださる市民ボランティアの育成にも取り組んでいます。

ひきこもり支援は、ひきこもりという多様で生活に密着した課題に取り組まなければなりません。現在どの部門の事業もそれに取り組んでいただけのスタッフが足りません。今後はスタッフの育成も大きな課題であると思います。さらに静岡市の現状で考えれば、静岡市ひきこもり地域支援センターだけでは市内にいるであろうひきこもりの方々の支援は数の上からも困難です。今後は地域でひきこもり相談に対応できる関係機関を増やしていく事も考え、お手伝いができればと考えています。



団体ではともに
さまざまな取組をおこなっています。
講演の依頼も多く、日々多忙な三森さんです。



連絡先

ひきこもり総合支援 NPO法人サンフォレスト

☎ 054-287-2639 (月、木曜 13:00~17:00) ✉ sun.forest@outlook.jp

市民活動見てある記

9月1日は防災の日。それに先駆け、災害弱者といわれる方たちを中心にした避難訓練がおこなわれました。

● 災害時要援護者避難 ・ 宿泊体験

主催 清水災害ボランティアネットワーク

共催 NPO法人清水障害者サポートセンターそら・社会福祉法人静岡市社会福祉協議会

災害時、介護の必要な高齢者や障がいのある方たちは特に支援が必要です。

8月19日、20日、清水区庵原の「清水障害者サポートセンターそら」を会場に、実際に避難行動や宿泊を体験し、いざというときにどのような行動をとったらよいかを考える取組がおこなわれました。

参加者は、障がいのある方やその親御さん、施設の職員、災害ボランティアのみなさんです。



第1の課題は避難地への移動

発災から避難まで、自力で移動できない場合は介助者が必要になります。今回は第1避難場所まで約10分と聞いていましたが、直進できない箇所もあり、車いす利用者も介助者にとっても長い道のりでした。

また、障がいによって場面転換が苦手な方は避難そのものが難しい場合もあり、家族からは、できるだけ本人が慣れていて安全な場所に留まりたい、という声を聞きました。

避難所生活を考える



避難所でのストレスを減らすために、間仕切りが使われますが、年々使い勝手の良いものが開発されています。その組み立ても体験しました。

多くの被災地支援を経験しているボランティアネットワークの大石学さん(円内写真)からは、「これら支援物資が届くのは発災後1週間以降」という説明がありました。また、間仕切りによってコミュニケーション不足になり、トラブル発生の原因になることもあるのでその解消法も必要、と指摘しています。

健常者でも厳しい環境に適應するのは難しい中で、障がいや病気のある方にはさらに大きな負担がかかることが想像できます。

慣れた環境で避難生活を

静岡市には要援護者を二次的に受入れる福祉避難所があります。受入れのためには要援護者として台帳に登録し、地域の自主防災組織や民生委員などが把握する、という仕組みです。

サポートセンターそら理事長の山本忠広さんは、「緊急時に、手続きなどのゆとりは無く、特に自力で動けない人にとっては現実的ではない。自分たちは、事業所として利用者を中心に受け入れられる態勢を作っておきたい。今回の訓練もその準備のひとつ」と語りました。

参加した家族からも「常に家族が付き添っているわけにはいかない。障がいや病気について理解し、対応できる職員がいる施設に避難できることを希望する」という意見がありました。

求められる地域との連携

静岡市では自主防災組織が自治会や町内会によってつくり、災害発生時には速やかに対応できる態勢ができています。

災害が起きたときは、情報や救援物資は自治会に集まるので、自主的に作られた避難所には届きにくいかもしれません。施設として自治会に加わることが望ましくても職員個々の事情があり、自治会側も受け入れについて了解が得られていないそうです。

防災の日を中心に、全国各地で防災訓練や避難訓練がおこなわれます。しかし、障がいのある方を対象とした訓練はあまり多くありません。このような体験会を繰り返すことで、想定外に対処できる力がつき地域の理解も広がるのではないのでしょうか。

NPOワンポイント

● 「年末調整」の準備は11月から

人を雇用して給与を支給している団体は、その年の1月から12月までの給与所得から税金を計算し、すでに天引きしている所得税金から精算する年末事務処理が必要です。

所得税控除対象となる生命保険料や損害保険料の証明書が各家庭に届き始める時期になります。働いている方たちは提出について確認しておきましょう。また、保護者が負担している子どもの国民年金保険料も控除の対象になりますので、事務処理を担当する方はご注意ください。

事業のご案内

● NPO入門講座「NPO cafe ～NPOがわかる午後～」

毎年恒例のこの講座では、

「市民活動って?」「NPO法人とは?」「どんなことをしているの?」「わたしにもできるの?」

そんな疑問にお答えしています。

「そもそもNPOってなに?」を知るチャンス!

カフェスタイルでお茶を飲みつつ、ゆるやかに学ぶことができます。



日時 10月21日(土)
14:00～15:30

講師 センタースタッフ

参加費 200円

NPOの資金調達を考える講座 第3回

● チャレンジ! クラウドファンディング

SNSによる資金調達「クラウドファンディング」を利用する団体が増えてきました。

静岡限定のファンド「FAAVO静岡」の紹介や成功事例を聞き、その活用を考えてみませんか?

日時 11月28日(火) 19:00～ **参加費** 無料

ゲスト FAAVO静岡 事例発表者 (株)あらまほし 戸田祐也さん

主催 静岡信用金庫・静岡市清水市民活動センター

共催 (特活) NPOサポート・しみず

センター11周年記念事業

● あなたが選ぶパネルコンテスト

力作揃いの団体の活動紹介パネル展が始まっています。

コンテストは、どなたでも参加できます。お気に入りの団体に、あなたの1票を投じて下さい。

投票期間 10月1日～11月5日



● 市民活動FESTA 2017

いろいろな分野の市民活動団体がブースを出して活動をPRします。

団体交流やパネルコンテストの結果発表、抽選会もおこないます。お誘いあわせのうえおいで下さい。

日時 11月5日(日) 13:00～16:30

会場 清水市民活動センター

しみず・コレなあに?

その27



東海道由比宿と興津宿の間に、難所と言われた薩埵峠(さつたけ)があります。その東麓にある「望嶽亭藤屋」は、江戸時代、東海道の発達とともに間宿(あいのしゆく)の脇本陣、茶亭「藤屋」として有名になり、多くの文人墨客で賑わったところです。

現在も残るこの建物は慶応年間に建てられたといわれ、外観は一般的な土蔵です。しかし、中は十五畳ほどの客間になっており、黒光りのする廊下がついています。その座敷からは富士の絶景が眺められることから、「望嶽亭」と名づけられたといわれています。

入り口の両開き扉は厚さ20センチの漆喰で固められ、扉の裏には地下に繋がる隠し階段もあります。この階段にまつわる山岡鉄舟のエピソードをご存知の方も多はずです。